



障害のある若者の雇用に関する 日米企業リーダー育成研修

ウェビナーシリーズ

教育現場から雇用へ:どのようにして障害のある学生達が高等教育におけるアクセシビリティを阻む
障壁を克服しているか?

ウェビナー#2

(日本時間)2021年5月14日午前9時~午前10時30分
(米国東部標準時間)2021年5月13日午後8時~午後9時30分

本パネルでは、障害のある若者の雇用を実現するための最初の取り組みとして、高等教育への進学を阻む体系的な障壁を除くことに焦点を当てる。パネリストは、入学試験時や教室内における配慮不足だけでなく、自立生活や学業面で目標を達成する際に必要となる住居や交通、その他の地域サービスなどへのアクセスの制限によって障害学生がどのような影響を受けるのかについて意見を交わす。本パネル・ディスカッションでは、日米の高等教育における配慮への取り組み方の相違点を浮き彫りにし、インクルージョン促進のために日米両国の「アクセス・メーカー」がどのようにお互いから学び合うことができるのかを明らかにする。さらに、障害のある若者達の高等教育から雇用への移行を支援する政府の役割についても言及する。

お問い合わせ先:

Heike Boeltzig-Brown, PhD
プロジェクト・ディレクター
Heike.Boeltzig@umb.edu

田那邊美和
プロジェクト・コーディネータ
Miwa.Tanabe@umb.edu

事前登録制・参加費無料

情報保障:日英同時通訳、日英文字通訳、日本手話、アメリカ手話

事前登録: https://communityinclusion.zoom.us/webinar/register/WN_0eL7uPFqQQiaL8e1emtSdA

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



Institute for Community Inclusion at UMass Boston



ディーン・アダムス

博士

研究者兼教育者、イリノイ大学シカゴ校、ナショナル・ルイス大学

ニューヨーク州にあるシラキュース大学より、女性学・ジェンダー学・障害学を専門とした、特別支援教育の博士号を取得。過去10年以上にわたり、障害者の文化・歴史、インクルーシブ教育理論、学習におけるユニバーサルデザイン、障害・人種・ジェンダーをまたぐ研究を行い、教鞭を執っている。現在は、DisCrit(教育機関に当たり前のこととして存在する人種差別主義・健常主義を、障害学と批判的人種理論を理論的枠組みに用いる研究)や、学校から刑務所に若者が送られていく構造の分析を行っている。シカゴ大学イリノイ校障害文化センターの初代暫定センター長を務めた。また、インクルーシブ教室イニシアチブに協力し、シカゴ大学イリノイ校における障害のある学生のニーズに対応するための教職員トレーニングを担当している。



アマンダ・クラウス

博士

アリゾナ大学 キャンパスライフ担当副学長

アリゾナ大学 障害リソースセンター長兼A D A・504コンプライアンスオフィサー

アリゾナ大学 高等教育研究センター准教授

アリゾナ州ツーソン在住し、アリゾナ大学に20年勤務。キャンパスライフ担当副学長として、障害リソースセンター長ならびに大学のA D A・504コンプライアンスオフィサーを務める。全米最大規模となるアリゾナ大学の障害リソースセンター(DRC)は、先進的なサービスを提供しており、国内外から手本とみなされている。学内の環境や、学内におけるエクスペリエンス(経験)に、様々なニーズを持つ学生・教職員がアクセスでき「自分は歓迎されている」と感じられるよう、キャンパス設計においてもDRCが主導的な役割を果たしている。これにより、個別対応による配慮や変更の必要性も減っている。同大高等教育研究センター准教授でもあり、修士課程のコーディネーターに加え、学生向けサービス、能力開発、高等教育における障害に関する授業も担当。自身の研究、また学生の教育においても、障害学が有効であると考えており、障害を、権力と特権のせめぎ合いから形作られる社会正義の文脈で捉えている。大学を離れば、熱心な車椅子テニス選手でもある。障害のある選手に機会を与えること、車椅子テニスのアメリカにおける知名度を上げることに情熱をかける。



村田 淳

京都大学 学生総合支援センター、准教授

京都大学 障害学生支援ルーム、チーフコーディネーター

高等教育アクセシビリティプラットフォーム(HEAP)ディレクター

2007年より、京都大学における障害学生支援に従事。学生総合支援センター准教授として、組織横断的な障害学生支援体制の構築、合理的配慮提供に関するシステム構築に携わる。障害学生支援ルームのチーフコーディネーターとして日々、障害学生と直接関わっている。キャンパスのバリアフリーマップ作成や、ピアサポートプログラムの立ち上げなどを率先。近年は、障害のある学生の社会移行支援プログラムや、京都大学におけるインクルーシブな災害対策プロジェクトの強化に携わっている。学外の活動としては、全国高等教育障害学生支援協議会の理事を務める。また、文部科学省の障害学生支援プラットフォーム形成事業、HEAP(高等教育アクセシビリティプラットフォーム)のディレクターも務める。高校・大学における障害学生のキャリア教育と就活サポートなど、障害に関する主な共編著が2冊ある。2018年、マサチューセッツ大学ボストン校(ICI)で行われた「日本の高等教育における障害学生支援に係るリーダー育成海外研修」に参加。

